

開講年度	令和7年度		開講課程	博士課程			
授業名	神経再生・発生・疾患学特論						
開講キャンパス	伏虎	教室	基礎教育棟3階講義室3 中講義室303				
科目区分	専門科目	配当年次	1年次				
必修・選択の別	選択	単位	1単位				
対象学生	一	使用言語	日本語				
キーワード	神経発達、神経変性疾患、末梢神経障害、治療薬、神経再生医療、脳発生						
担当教員 (下線:科目責任者)	医						
	薬 教授 那波宏之、教授 三宅 歩、教授 今井哲司						
授業の概要	中枢神経系や末梢神経系を構成する神経細胞やグリア細胞の発生、発達や役割について紹介する。また、神経変性疾患、発達障害や末梢神経障害の病態や発症機序について概説する。さらに、当該疾患に対する主要な治療薬の作用機序、副作用について説明するとともに、再生医療の可能性と課題について概説する。						
到達目標	<input type="checkbox"/> 神経変性疾患や末梢神経障害研究の現状と、臨床におけるアンメットニーズを理解する。 <input type="checkbox"/> 神経再生医療の可能性とそれらの課題について修得する。						
授業計画	1. 神経栄養性因子・サイトカイン学（那波宏之／1回）【12/4 6限】 2. 神経炎症学（那波宏之／1回）【12/4 7限】 人の生後脳発達過程を理解し、関連する脳疾患とその病態を紹介する。 3. 4. 7. 8. 脳の発生、精神・神経疾患ほか（三宅 歩／4回） 【12/11 6限・7限】【12/18 6限・7限】 脳の発生と分泌タンパク質に関する研究、心の脳・神経科学的基盤について概説する。 5. 末梢神経系を構成する細胞群の発生とそれらの機能的役割（今井哲司／1回） 【12/17 6限】 末梢神経を構成する神経纖維、髓鞘細胞、化学受容器の発生や役割について紹介する。 6. 末梢神経障害の病態と治療法（今井哲司／1回）【12/17 7限】 末梢神経障害の病態や研究の最前線、治療法の現状を紹介し、アンメットメディカルニーズについて説明する。神経再生による治療戦略とその課題について説明する。						
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。						
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。						
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。						
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。						
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。						
教科書・参考書	【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。 【参考書】特に指定しない。						